

令和4年度 京都府立洛水高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 **実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標))	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
すべての生徒が輝ける学校 生徒の力を最大限伸ばし、進路を決定して卒業させる (1)「自主・自律・挑戦」の校是に基づく指導を行い、自らを律し、学び、考え、行動できる人間を育てる。 (2)洛水式キャリア教育を中心として、学習活動、学校行事、部活動等を通して、互いの人権を尊重し、人間性豊かで、社会に貢献するという高い志を持たせる。 (3)個々の生徒の資質、能力を伸ばす手立てを工夫し、学力を伸長することで、希望進路を実現させる。 (4)学校教育の内容や指導方針を明確にし、丁寧な説明をすることで、地域社会に信頼される、開かれた学校づくりに努める。	(1) 成 果 ・ コロナ禍ではあるが、生徒が将来展望を持てるよう洛水式キャリア教育を推進すると共に、地域と連携をして学習をする機会も持つことができた。 ・ 昨年度に引き続き、服装指導を徹底することで身だしなみに対する生徒の意識が向上し、正しく制服を着こなすことができるようになった。 ・ 系統的・計画的に人権教育を進めることができた。 ・ 特別な支援が必要な生徒に対し、関係教職員や外部関係機関との連携を図り、適切に対応することができた。 ・ ICT機器を利用し、リモートによる授業配信を行うことができた。 ・ 教職員がタブレットを活用できるように校内研修を積極的行うことができた。 ・ 登校時の巡回指導など、自転車乗車中のルール遵守やマナーの指導を行ったため、それらの向上が見られた。 (2) 課 題 ・ 一部の部活動は活性化してきているが、技術指導のできる顧問が不在の部もあり、今後技術指導のできる顧問の配置や外部指導者の発掘など生徒が熱心に取り組める環境づくりを図る。 ・ 安易な欠席・遅刻をなくし、生徒が意欲を持って学習に取り組めるように、さらに高度な授業規律を目指し、組織的に指導ができるようマニュアル化など充実させる。	・ 教職員は、生徒の伸びる力を信じ、可能な限り惜しみなく個々の生徒に向き合い、本人に寄り添い保護者の気持ちも理解しながら学力の向上を図り、進級・卒業に向けて力を尽くす。 ・ 危機管理の徹底を図り、安心・安全な環境づくりと自他の生命を大切にし、健康で安全な生活を送ることができる健康安全教育の充実に努める。 ・ 規律ある学校生活と基本的生活習慣の確立を図り、欠席・遅刻の減少に向けた指導を強化する。 ・ 当たり前のことを当たり前に行える生徒を育成する。 ・ 何事にも粘り強く努力できる生徒を育成する。 ・ 進路希望を実現するため、学習活動において基礎・基本を大切にし、洛水式キャリア教育におけるインターンシップ、課題解決学習等を推進することにより、人間性を高め、社会で生きる力を育成する。 ・ 人権意識の尊重と共生社会の実現に向けた取組を充実させ、「いじめ」や差別を許さない環境を構築する。 ・ 地域でのボランティア活動など積極的に行うとともに、学校運営協議会をはじめとした地域との交流を通じて開かれた学校づくりをより推進する。 ・ 活力ある部活動の実現と魅力ある学校行事の企画・運営により学校生活を充実と学校の活性化を図り、豊かな社会性を育成する。 ・ 広報活動をさらに充実させ、地域・中学生及びその保護者へ、洛水高校の魅力を伝える取組を行う。

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教務部	基礎学力充実	基礎学力向上をめざし、授業規律の確保、欠席者・遅刻者の減少および成績不振生徒に対する指導を充実させる。	授業規律を確保して、生徒が授業に集中できる環境をつくり、基礎学力の向上のための基盤を整える。 学年部や生徒指導部と連携し、朝の遅刻指導について段階的な指導を学期ごとに行う。欠課過多者については、学年部・教科担当者との連絡を密にし、出席不良による単位不認定とならないよう指導を行う。 教科における基礎補充の実施や担任への成績資料の提供等を通じて成績不振者への指導を行うとともに「学び直しやセカンドラーニング」についても分掌・教科等と連携して状況を把握する。	3	3	基礎学力が不足している生徒には、学び直しやセカンドラーニング教室の活用、定期考査前や長期休業中の補充指導などに取り組み、状況を把握することができた。 欠席・遅刻については、学年部や生徒指導部との連携した取組が、遅刻や欠課時間数の減少にまではつながっておらず、今後の課題である。 新教育課程について、教科と連携し、科目内容や観点別評価について、各教科で進めていくことができた。また、研究授業を通じて、ICTを活用した授業の展開など積極的な意見交換ができた。 人権学習の充実について取り組み、関係各部・教科等の協力を得て、学習を進めることができた。また、人権だよりに生徒の感想文を載せ、事後学習に役立てることができた。 「読書のすすめ」の発行や、校内選書会の実施するなど、利用者の増加に努めた。授業でも図書の活用を行った。また、図書館でのイベントも開催することができた。
	教育課程	特色ある学校づくりに向けて、新教育課程を適切に進めていく。	新教育課程の実施による新しい科目がスタートするため、教科と連携し、3年間を見通した授業の充実を図る。	3		
		年間授業計画に基づいた教育課程の適切な実施と指導と評価の改善を行う。	年度当初の授業で「シラバス」を生徒に配布して授業内容や評価の観点等を伝える。iPadが新しく導入されるため、研究授業を通じて「ICT機器を用いた効果的な授業」を推進する。	3		
	人権教育	教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にしたい教育の推進を図る。	人権教育について工夫・改善に努めるとともに、3年間を見通した人権学習を計画して実施する。	3		
	図書館運営	図書館教育を通して生徒の教養の充実を図る。	図書館利用指導・読書指導の充実を図る。そのために、教科との連携、生徒の委員会活動・部活動との催事共催等を推進する。	3	3	
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	遅刻指導、身だしなみ指導、授業規律への指導等を全教職員で継続的に行い、当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成を図り、よりよい人格の形成を目指す。	3	3	基本的な生活習慣の確立として、遅刻が多い生徒へ遅刻指導を行った。粘り強く指導しても遅刻が改善されない生徒もあり、今後更に、よりよい遅刻指導のあり方を模索していく必要性を感じている。 自転車乗車マナーの向上を図るため、定期的に生徒が登校時に校外へ教員が出て、自転車の一時停止等の指導を継続して行った。 自主・自律の伸長については、3年ぶりに文化祭を実施することで、活動を通じて生徒自らが主体的に活動する機会を設けることができた。
		自転車乗車マナーの向上	警察、PTA等と連携した交通安全教室及び登校指導等の実施により、交通事故の防止と自転車乗車中のマナーの向上を図り、生徒が加害者にも被害者にもならないことを目指す。	3		
	特別活動	自主・自律の伸長	生徒会活動及び部活動の加入率の上昇を図り、学校祭を始めとした特別活動のさらなる活性化を目指す。	3		
進路指導部	進路指導	進路意識向上を目指した取組の充実	進路ガイダンス・キャンパスツアーを中心に、進路意識向上のため取組を充実させ、進路意識を高める。	3	3	進路意識向上を目指した取組の充実については、学年毎にガイダンスなどを中心に進路意識を高める活動を行った。3年生の進路は、一人一人個別に丁寧に指導していくことで、就職については4月当初から希望していた生徒は全員内定をいただくことができた。進学についても、希望に応じて上級学校と家庭との個別面談を行い、進路決定につなげることができた。
			進学補習・就職対策補習(仮)を行い、希望進路実現のための力をつける。	3		
	情報の発信	家庭・生徒との連携強化	大学入試改革について、『共通テスト』や各大学の動向・現状を把握し、生徒への情報提供が的確にできるよう努める。 家庭との連携のため、各学年に進路説明会を実施し、近年の進学・就職の情報を発信し、保護者との連携強化に努める。	3	3	家庭・生徒との連携強化については、保護者説明会を中心に連携強化に努めた。今年度、新たに事務部と連携し、奨学金のガイダンスを実施した。説明会参加保護者にはとても良い機会となった。今後は更に参加数を増やしていきたい。

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健部	健康安全教育	健康診断の教育的活用と事後指導の徹底を図る。	生徒の健康状態を把握すると同時に、生徒自身が自らの健康状態を健康相談や毎月の保健室だよりなどで理解させ、基本的な生活習慣の確立を促す。	4	4	毎日の健康観察や昼休みの放送等で感染予防の啓発を行った。保健委員会作成の保健だよりによっても健康安全への啓蒙が図れた。スクールカウンセラーとは緻密な打ち合わせをし情報を共有しながら進められた。支援学校等、関係機関とも十分に連携が図れた。教職員研修についても、支援学校との連携によって支援教育について理解を深めることができた。生徒の多様化を鑑み、一層きめ細かい支援のあり方を模索する必要がある。加えてAED講習も実施できた。清掃について、ゴミの分別はまだ十分と言えないところもある。大掃除についても、従来の方法を踏襲している。教員生徒数の減少をふまえて、より効率的効果的な清掃のあり方を模索していきたい。
		生徒の心身の健康保持と安全の確保に努める。	保健委員会において保健だより等の作成を行い、自転車の安全運転等を含め、自ら健康・安全管理ができる姿勢を養うとともに自主的な活動を支援する。	3	3	
			教育相談・特別支援教育の充実とスクールカウンセラーとの連携を深める。また、必要に応じて外部の支援機関にも繋ぎ、生徒一人一人に適切な対応を行う。	3		
			感染症予防のための正しい知識を得させるとともに、自他の命を守る意識を向上させる。	3		
		校内美化の活動を推進し、環境に対する生徒の意識向上を図る。	ゴミの分別を徹底するとともに、日々の清掃活動や環境委員会の活動を充実させ、清潔で落ち着いた学習環境を作る。	3	3	
総務広報部	洛水式キャリア教育の推進	洛水式キャリア教育を推進することで、人間性を高め、社会で生きる力を育成する。	1年生に対して、SDGs等についての探究学習を行い、洛水式キャリア教育の充実と発展を図る。	3	3	1年生は他者との関わり方を学び、自己分析を行った。その後、多様な他者と協力しながら、調査分析を行い自己の強みを生かしたプロジェクト活動を実施することができた。2年生では地域の企業50社以上の協力の下、プロフェッショナルインタビュー、5日間のインターンシップを計画通り実施できた。また、防災学習を計画的に実施することができた。今後も地域との繋がりを深める探究活動や対外的な発表の機会の充実を図りたい。 ホームページにおいては校内の360°ビューを用いた広報、新制服の広報を増やすなど充実した内容となった。学校説明会・個別相談会・部活動体験等においては丁寧な説明を心がけ実施することができた。 一人一台端末整備の初年度であったが、早期に配付することができた。また、授業ではロイロノートを中心に活用できる環境整備を行うことができた。今後更なる環境の整備、活用の充実を図りたい。 PTAとの連携において、コロナ禍の下、広報誌を3回発行した。また学校祭等に協力することができた。
			2年生に対して、プロフェッショナルインタビューやインターンシップを中心とした洛水式キャリア教育の推進に努める。また、各種講演会やガイダンス、成果発表活動などの充実を図る。	3		
	広報活動の推進	学校の様々な取り組みや情報を発信し、地域社会に信頼される開かれた学校づくりに努める。	ホームページやメールを活用し、特色のある授業、学校行事、部活動、生徒会やHR活動など本校の魅力を中学校、保護者や地域社会に発信する。	3	3	
			学校公開、説明会、部活動体験、個別相談会や中学校訪問、出前授業等を開催し、中学生やその保護者に選ばれる学校を目指す。	3		
	ICTの推進	ICT機材の整備、効果的なICTの積極的な活用の研究	一人一台端末の整備、生徒と教職員が安心して使えるICT環境の充実を図る。 Microsoft.teamsやロイロノート等を活用し、教育の質の向上へ向けた研究会・研修会を実施する。	4	4	
	PTAとの連携	組織の活性化を図り、本校と家庭との連携を深める。	文化教養講座、社会見学、交通安全指導、文化祭での取組等の行事等を通して、PTA活動の発展に寄与する。また、メール連絡の発信回数を増やし、丁寧な情報提供に努める。	3	3	
第一学年部	基本的生活習慣の確立	挨拶や時間管理を徹底し、基礎的なコミュニケーション能力を身に付け、他者への思いやりを持った、当たり前のことを当たり前にできる集団を育成する。	挨拶の励行、遅刻・欠席の防止、マナーや時間を守るなど、日々のあらゆる場面において、生徒が当たり前のことを当たり前にできるよう指導する。また、日々の学校生活を振り返る時間を作り、自分の行動が周囲に与える影響を考えさせる。	4	4	4
	学習指導 キャリア教育	キャリア教育を通して人格を高め、人との触れ合いを通じて社会で生きる力を育成する。	学習活動において基礎・基本を大切に、粘り強く学習に取り組む態度を育成する。社会と繋がるプロジェクト活動等を通して社会性を身に付けさせる。	4	4	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第二学年部	基本的生活習慣の確立	基本的な生活習慣を確立し、規律ある充実した学校生活を送る。	欠席過多防止に向けて、遅刻や欠席の連絡を徹底し、時間を守る指導を行う。また、日常のあらゆる場面で当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成に努める。 頭髪・身だしなみを整え、常に洛水高校生としての意識を保てるように指導を継続して行う。	3	3	生徒の欠席や遅刻防止に向けて家庭連絡や指導を丁寧に行うことができた。しかしながらいまだ続くコロナ禍の影響もあり欠席する事へのハードルが低くなってしまった生徒が多くなっている。東北研修旅行については、その後、定期考査・学校祭などが続きタイトなスケジュールではあったが、震災学習・農業・自然体験など、どれも規律正しく有意義なものとして行うことができた。また総合的な探究の時間におけるインターンシップは2年次に延期となったが、生徒たちは主体的に活動することができた。
	進路・学習指導	生徒の力を最大限伸ばし、進路希望実現に向けての真の学力を身に付け、生涯に亘るキャリア教育を推進する。	1年次のキャリア教育をインターンシップの実践に生かし、主体的に取り組むことのできる生徒を育成する。 東北研修旅行に取り組み、人間性を高めるとともに社会で生きる力を育成する。また自らの将来を展望する態度を育成する。	3	3	
第三学年部	基本的生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立を促し、自立した社会人となる自覚を持たせる。	挨拶の励行、遅刻・欠席の防止、時間を守る指導を継続的・段階的に行う。特に、社会における時間厳守の大切さを理解させ、習慣化させる。 日々の学校生活や就職・面接指導などの進路指導を通して、社会人となるにふさわしい身だしなみや態度を身に付けさせる。	3	3	生徒の欠席や遅刻の改善に向けて、家庭連絡や指導を丁寧に行ったが、完全に防止することはできなかった。3年間を通して、コロナ禍の影響を大きく受けたが、その中で学校祭等の自主的な活動を仲間と協力し取り組むことができた。進路については、当初から就職希望の生徒は全員内定を決めることができた。進学については、総合型選抜や学校推薦型選抜での受験が大半であったが、概ね希望進路を実現できた。3年生になり自ら将来を見据えて努力し、進路指導部と連携し進路実現につなげた。
	進路・学習指導	進路の実現に向けて計画的な学習に取り組ませ、学力の向上を図る。自己の適性に応じた進路を選択し、主体的に進路実現に取り組む態度を育成する。	進路目標の実現に向けて、進路指導部と連携し分野別説明会や個別面談等を実施する。 就職セミナー・面接指導・志望理由書や小論文指導・総合型選抜対策など、進路指導部と連携し生徒・保護者のニーズに応じた指導を行う。また、進学補習や学力補充等の充実を図るとともに模擬試験を積極的に受験させるなど、自分に合った進路先を見つける指導の充実を図る。	4	3	
事務部	施設・設備管理	学習環境の整備 設備・備品等の改善	安心・安全な学校づくりのため、施設担当者・技術職員を中心に施設設備の点検を実施する。また、関係部署と連携し、学習環境の整備を図り、特にICT化について推進する。	3	3	学校施設の危険箇所等については、定期的な点検の上、早急に対応できた。また、校内トイレや女性休養室の改修工事を行い、衛生環境の改善を図ることができた。しかしながら施設に関しては経年劣化の目立つものなどの懸案事項も多くあるため、引き続き長期的な視野に立った学習環境の整備に努めたい。 修学支援関係においては、様々な制度の周知を図ることができたが、より分かりやすい周知方法について、検討していきたい。 予算に関しては法令に則った適切な執行はできたが、昨今の事情により厳しい状況ではあるのでより効果的な執行について取り組んでいきたい。
			長期的修繕計画を策定し、計画的な改修に努める。	3	3	
	修学支援	安心した教育機会の保障のための支援制度の周知	各種支援制度について周知を図り、生徒・保護者の経済的不安を軽減する。	3	3	
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を実施する。 職員相互チェック・確認体制の定着化を計る。	3	3	

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語科	教科指導	授業を大切にさせる取組	毎時間の授業に必要な教材を確実に準備させるとともに、授業外の予習・復習に取り組ませることができるような課題の設定に取り組む。	3	3	3	基礎学力の充実と学習習慣の確立を基軸に据え、教科指導を行った。学習に対する生徒の主体性を引き出すという点においては課題が残るものの、授業に取り組む姿勢をきちんと身に付けさせるという点においては一定の成果を挙げることができたといえる。また、全学年において基礎的な漢字を身に付けさせるために継続的な学習に取り組ませ、漢字検定の積極的な受検を推進するなど、「漢字力」の醸成についても一定の成果を挙げることができた。
		基礎的な漢字を身に付けさせる取組	全学年を通じて漢字小テストを継続的に実施し、基礎的な漢字を確実に身に付けさせる。日本漢字能力検定の受検を推奨し、受検意欲を喚起するための取り組みを行う。	3	3		
		主体的に学習に取り組ませる取組	国語を学ぶ意義を理解させ、授業の内外を問わず主体的に学習に取り組む態度を養う。	2	2		
地歴公民科	教科指導	社会全般の知識の定着	小・中学校からの学び直しを意識し、基礎的な知識や用語を身につけさせる。ICT機器の活用や写真資料などを活用し、視覚的にイメージしやすいような授業づくりを心がける。特に、教員の講義一辺倒にならないよう、生徒が自発的に考えられるような授業構成で進めていく。	3	3	2	基礎的な知識の理解を重点的に行い、生徒の学力に合わせる形で授業を展開していった。ICTも活用しながら生徒が授業に積極的に参加することができた。主体的に学習に取り組む力については、課題の提出などは全体的にある程度できていたが、普段から整理整頓もなかなかできない生徒に対しては個別に声掛けをマメに行う必要があり、支援を要する生徒に対するケアに割く時間は一層大きくなってきている。どの生徒に対しても自らの意思で行動できるようにする力を養っていくことが課題である。また、主権者教育については、第1学年に模擬投票の体験活動を実践した。
		社会参画への意識の向上	学習内容と現代社会の諸問題との結びつきを考え、地歴公民科目を学ぶことの意義を理解できるようにする。社会参画の一步となる主権者教育を充実させる。	2	2		
		主体的に学習に取り組む力を養う	学習姿勢の定着を第一とし、授業時の態度や学習ルールが守れるように声かけをし続けていく。知識の定着という土台をつくりつつ、社会参画への意識付けを促すために、レポート等の課題を行い、主体的に考える力を身につけさせていく。	2	2		
数学科	教科指導	授業規律の確保と基礎学力の向上	授業時間ごとに目標設定を行い、集中して授業に取り組める環境を作る。	3	3	3	数学を苦手とする生徒が増えたが、ICT機材を用いた授業や課題などの取組状況を評価に大きく取り入れることにより、授業規律と意欲の向上に繋げることができた。スタートワークを活用し、学び直しとして小中学校の内容の総復習を行った。習熟度別授業では、個に応じた内容等で工夫をすることができた。発展的な入試に対応できる学力の養成に課題が残る。
			学び直しの学習を取り入れ、年間を通して基礎学力の定着を目指す。積極的に家庭学習を行えるよう、計画的に課題やノートを提出させる。	3			
		進路希望実現のための学力を育成	習熟度別授業では、講座に応じて学習する内容・進度などを工夫することにより、入試にも対応できる学力の向上を目指す。	3	3		
理科	教科指導	新学習指導要領に対応した新たな学びの実現	生徒全員ができる・分かる授業を実現するために、授業支援アプリを積極的に活用し生徒主体の学習を目指す。また、テストだけでなく、パフォーマンス課題や振り返りなどを活用し、生徒の学びを様々な観点から評価することで新たな学びを実現する。	3	3	3	新たな学びの実現では、活用の方法等のより一層の推進に課題が残った。授業支援アプリの積極的な活用、パフォーマンス課題や振り返り等で、生徒の学びを多様な観点から評価することができた。また、実験においても、昨年と比較し、多くの実験・観察を行うことができた。
		実験・観察の充実	教科担当者が実習助手と密に連携し、実験・観察を充実させ、生徒の興味・関心を引き出す。	3	3		
保健体育科	教科指導	運動の楽しさを知り、積極的に参加する態度を養い、運動能力とともに豊かな人間性の育成を目指す。	協力し合い授業を作るという意識を持たせることで、規律・協調性・責任感など社会で生きる力と主体的に取り組む力を育成する。指導したことに対しての達成度合いをフィードバックすることで、意欲や主体的に取り組む態度の向上を目指す。	3	3	3	指導方法や課題を明確にすることで、生徒自身が自発的に練習に取り組む機会も増えた。技能等達成度合いのフィードバックについては方法や機会などさらに深めていく必要がある。
		知識・理解を深めるとともに、課題学習を実践する。	健康に対する知識を身につけ、調査・研究により健康に対する理解を深め、自らの意見を発表する能力を身に付けさせる。	3	3		

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
芸術科	教科指導	多角的な視点から表現・鑑賞活動を行い、多様な価値観を育成する。	1年生において、半分以上の授業で生徒自身がタブレットを操作する活動(創作・鑑賞・意見交流等)を行う。2・3年生においてもそれに準じた取組を行う。	3	3	3 1年生においてはタブレットを使用し作品作りや意見交流等を行うことができた。2・3年生においては回数は少ないがそれに準じた活動ができた。今後より一層ICTを活用できるよう研鑽していきたい。 毎時間忘れ物チェック・服装点検を行った。
		授業マナーの向上と学習意欲を高める指導を目指す。	毎時間、忘れ物チェック及び服装点検を行い、落ち着いたものある授業環境を整える。	3	3	
英語科	教科指導	学習習慣の確立と基礎学力の定着	基本的な英語コミュニケーション能力に繋がる基礎的な内容の定着を図る。そのために、地道な努力と家庭学習の大切さを理解させ、主体的に学習する姿勢を養う。	3	3	3 ICTを活用した授業に取り組み、iPadを利用した資料作成や英語での発表を通じて英語への興味・関心の育成、理解の促進を図った。 進学希望に対応できる学力の獲得を目指し、授業以外にも英検や進学補習を実施した。また、低学力生徒に対し補充などを行い基礎学力の向上を図った。今後の課題としては、宿題や復習などの家庭学習を定着させることが挙げられる。 AETとのチームティーチングを行い、英語への動機づけ、及び使用の習熟を積極的に行った。
		進路目標の実現にむけた学力の伸長と向上	進路希望の実現に必要な基礎学力・コミュニケーション能力の伸張を図る。またその定着を目指して、授業以外に進学補習などを通じて継続的に学習する姿勢を育む。	3	3	
家庭科	教科指導	授業を大切に作る姿勢を育成する。	授業の理解度を確保するため、ノートやプリントの提出を徹底する。知識の定着を図るため確認の小テストを行う。	3	3	3 ノートや課題の提出を定期的に行い、小テストも実施することで知識の定着を図るように努めた。 ICTを活用しながら、日々のニュース等を授業に取り込むことで、学習内容と実生活を結びつけて考えさせることができた。 実習や活動を多く取り入れ、生徒の興味・関心を高めることができた。特に2年・3年では、社会人講師の活用により、幅広い視野を持たせることができた。
		生活に必要な知識と技術を習得させ、主体的に生活を創造する能力を身につけさせる。	時代の流れに即した内容をできるだけ取り入れ、実生活に生かせるようにする。自己実現や自立に向けた力をつけるために、実験・実習などを取り入れて総合的に学習させる。伝統文化の体験を通して、豊かな感性を育み、心豊かに生きる力を身につけさせる。	3	3	
情報・商業科	教科指導	授業を大切にし、時間を有効に使う態度を育成する。ICT教育教材を利用できる能力を身につける。	毎時間、課題・授業プリントの提出を徹底する。遅刻・欠課を減らす指導、「欠課届」提出の徹底を行う。	3	3	3 情報モラルの学習については、教科書や視聴覚教材を利用した講義形式の学習に加え、インターネットを利用した調べ学習やプレゼンテーションソフトを利用したグループ発表を実施することができた。 進路実現のため各検定試験にも対応した実習を充実させることができた。将来の資格試験取得について意欲を高めることができた。 コンピュータなどを効果的に活用し、コミュニケーション能力を高めることができた。タブレットを使用したICT授業の可能性を探り、来年度よりPCとタブレットのハイブリッド学習の展開を模索する。
			授業前自習を実施し、タブレットを使用したICT授業の可能性を探る。またスマートフォンの利用を模索する。	3		
		商業社会・情報社会に参画するための情報活用能力の育成を推進する。	情報の理論的な理解、情報モラル育成を行う。	3	3	
			情報モラルを育成し、コンピュータ等を効果的に活用する能力の育成を行う。	3		
			個人、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高め、プレゼンテーション能力の向上を図る。	3		

学校運営協議会 による評価	○コロナ禍であっても、すべての学校行事を実施することができ生徒の成長へと繋がった。 ○洛水らしい取り組みが定着してきている。特にインターンシップなどの将来を見据えた取り組みが地元への就職に繋がっている。 ○支援が必要な生徒を教職員全体で支えられている。関係機関等との連携を深め、さらに支援を充実していく。 ○身だしなみの指導や自転車マナー向上の取り組みの成果がでている。
------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	○「洛水式キャリア教育」を推進、さらに発展させるために地域と繋がり、社会全体で生徒の成長を見守っていく。 ○生徒一人一人を大切に、日頃から丁寧できめ細やかな指導を継続して行う。支援が必要な生徒に対しては、関係機関等と連携しながらチーム学校の実践を図る。 ○生徒の規範意識を高め、基本的生活習慣や身だしなみ等、社会人として必要な常識やマナーの向上を図る。 ○授業を大切に、遅刻や欠席を減少させ、積極的に学習に取り組ませていく。『主体的・対話的で深い学び』を実現し、基礎学力の向上を図る。 ○部活動の活性化や魅力ある学校行事の企画・運営を図り、学校生活を充実させ豊かな社会性の育成を図る。 ○本校の教育活動、特色について積極的に発信する広報の充実を図る。
-----------------------	---